

ニューヨーク便り

ジュリア・クロウ 訳: 関冨司

Letter from NEW YORK

by Julia Crowe

●チャック・ハリハン

チャック・ハリハンはコネチカット大学でギター演奏家コースを専攻し、マーク・M. デイヴィスに師事して学士号を取得、修士号をフランク・クーンズに師事してアリゾナ州立大学で取得した。

「これまでジャズとクラシック双方のテクニクを持ったアンドリュー・ヨーク、デュシャン・ボグダノヴィチ、ローラン・ディアンズといった演奏家を尊敬してきた私ですが、ジャズには興味がなく勉強したこともありませんでした。

しかし、アリゾナ州立大学に、マドンナやリング・スター、ウイントン・マルサリスなどのバンドに参加したニューヨークのギタリスト、フランク・ヴィグノラ Frank Vignola が客員教授として着任して以来すべてが変わりました。私は彼の講座であるジャズのインプロヴィゼーションとフレットボード・ハーモニーを履修しました。数多くのクラシック・ギタリストがハーモニーとインプロヴィゼーションを考えるようになり、私もジャンゴ・ラインハルトや彼の Quintette du Hot Club de France に夢中になったのです。

私は、ピッキングの技術もなしにジブシージャズを始めました。ジブシーのピッキングは独特で、ダウンはアポヤンド、アップはアルアイレとなります。2弦にわたる弾弦はアポヤンドからはじめるのが基本で、アポヤンドがアタック、ボリューム、トーンの基本となります。これはフラメンコのアルサプーアに似ていて、ピックを親指のように使い、その

際にはアーチ型になっている手首から動かします。この技術には練習が欠かせませんが、フラット・ピッキングやオルタネート・ピッキングのように手首を固定させて練習してきたピッカーは苦勞すると思います。またソリストとして大成するには Le Pompe (ポンプ) のリズムを学ぶために、先ずリズムギターから始めなければなりません。多くの有名なソリストは絶妙なリズム感を持っているので、彼らがヴァイオリン、アコーディオンや他の楽器の伴奏をするのは一聴の価値があります。楽譜をベースにした演奏を離れてジブシージャズのテクニクと言語を学ぶのは、厳しいハードルではありますが、大きな喜びでもあります。おかげでクラシックギターの演奏が改善され、自由と自信について新発見を与えてくれました。

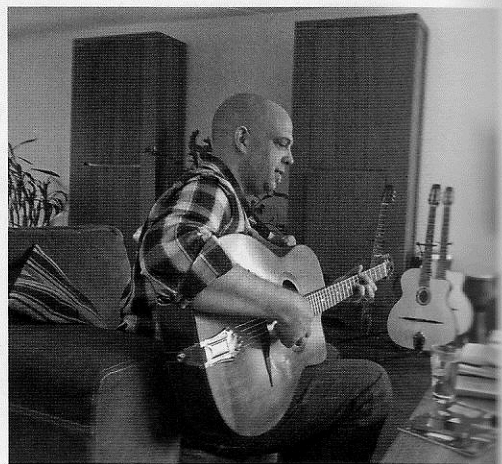
ジブシージャズの指導は、クラシック音楽の訓練とは大きく異なります。ジブシージャズの世界的なトップ・プレイヤーであるチャボロ・シュミット Tchavolo Schmitt、アンジェロ・デバール Angelo Debarre、ボーロ & エリオス・フェレ Boulou and Elios Ferre と共に参加したフェスティバルでは、真似して弾くことが強調されました。相手の演奏を聴いて即座に消化吸収し、覚えることが必須で、それができなければ演奏に参加できません。これがまさにジブシーのミュージシャンたち

が学ぶ方法で、フラメンコとよく似ています。

演奏家として自分が知ったのは、ジブシージャズやボサノヴァを演奏すると聴衆がエネルギーになり、それが演奏の楽しさを倍加させることです。聴衆の反応という意味では、クラシックギターの聴衆が無表情で静かであるのと対照的に、明らかに強力な意思表示があります。音楽の違った楽しみ方、味わい方があります。

私がプロのクラシック・ギタリストとして各地を周りながら、おもしろさと当惑の両方を感じるようになるまで相当な時間がかかりました。クラシックギターは常に相当の練習を必要としますが、それに比べるとジブシージャズは簡単な仕事のように感じます」

ハリハン、彼のギター、ライアン



オランダ・アルメレの製作家レオ・アイマースのギターを試奏するハリハン Photo: Harrison Hurwitz

ヴァンスのリズムギター、アーマンド・ラミレスのダブルベースからなる「ザ・ホット・クラブ・オブ・フェニックス The Hot Club of Phoenix」という彼自身のグループを組んだ。このグループはトリオが中心だが、たびたびハリハンの妻でフルート奏者のテレサ・ハリハンや他のヴァイオリン、アコーディオン、マンドリン奏者などが加わる。

ハリハンが現在使っているギターはバンクーバーのプリティッシュコロombiaに住むギター製作家シェリー・D.パークの、サウンドホールが楕円形をしたギターである。

ジブシージャズのプレイヤーが好むギターは、セルマックまたはセルマー・スタイルと呼ばれるギターで、ジブシージャズ・ギターとかジャンゴ・ギターとも呼ばれる。イタリアのクラシック・ギタリストでギター製作家のマリオ・マッカフェリは新しいギターの開発実験をしてきたが、セルマー社と組んで、彼が独自に設計した共鳴口がD字形のギターの生産を始めた。セルマーとマッカフェリが別の道に進んでからは、セルマーは楕円ホルのモデルを採用したが、ジャンゴ・ラインハルトはこのギターを生涯に亘って使用した。ハリハンがフランソワ・シャルルの著書〈セルマー・マッカフェリ・ギターの歴史〉を推薦している。

●音楽が結ぶ友情

ハリハンは2010年の夏、欧州ツアーでブリストル、パリ、アムステルダムで公演し、他のジブシージャズの奏者たちと親交を深めた。

「音楽はそれ自身が言葉ですから、人に話しかけるのに、その人の言語を使う必要はありません。むしろ音楽を通じて、すぐに絆ができて友情を芽生させることができるのです」

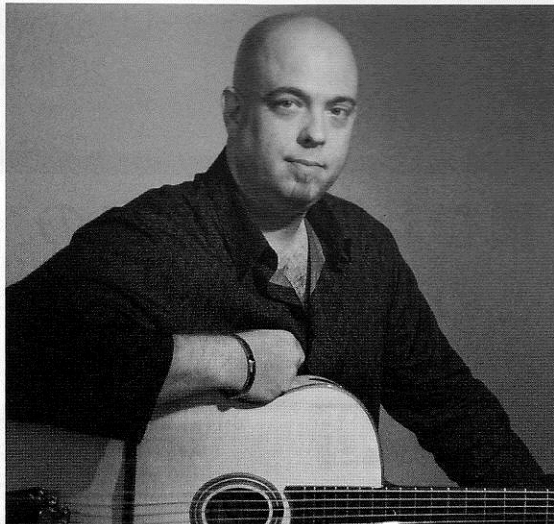
このツアーでの最初の公演は英国のブリストルにあるグレイン・バージで、ギタリストのブレット・ルイスと彼のモダン・ジブシージャズ・カルテットと共演した後、ロンドンの有名なジブシージャズ・クラブ Le Quecumbar でジャズ・セッションを行なった。

「私がブレットに会ったのは2年前で、

ジブシージャズ音楽祭で徹夜のジャムセッションをし、それ以来連絡を取り合ってきました。私が再びこの街に来た時には、なんと私の使うギターを買ってくれて、ベース奏者はアンプを貸してくれました。私はこの友情に圧倒されました。メンバー全員で最高の演奏ができました」

ハリハンは、パリやアムステルダムでも他の音楽家から同様の友情を受けた。

「現在パリに住んでいるニューヨーク出身のギタリスト、テッド・ゴッツェゲ



チャック・ハリハン Photo: Harrison Hurwitz

ンは、私がどの会場に行くべきかをアドバイスしてくれました。滞在期間は3日でしたが、私が聴きたいと思っていたミュージシャンは誰もウェブサイトを持っていませんでした。そこで彼に助けてもらって、1日に3つのコンサートを聴くことができました」

ハリハンはパリのレストラン「ラトリエ・シャロンヌ」でザ・ブルナード・コネクションの演奏を聴いた。クリストファー・ブルナードのリードギターで、ヴァイオリニストである彼の息子のジュリー・ブルナードと演奏した。

「ブルナードは、すぐに私がミュージシャンであることに気づき、一緒に演奏するよう招いてくれました。彼らが持っていた楽器の中から、どんなギターを弾きたいか聞かれました。1曲だけ演奏するつもりでしたが、彼らの迫力に圧倒され、執拗に演奏を続けるよう言われて3曲演奏しました。ロサンゼルスギターカルテットのメンバーの1人が突然立ち上がり、聴衆の1人にギターを手渡しし

緒に演奏しようと声をかけたような場面を想像してみてください。これがジャズというものです」

ジブシージャズ・グループのPigalle 44に所属するヤン・ブラウアー Jan Brower は、ハリハンをオランダに迎えてくれてムスタッシュ・ギターの製作家であるレオ・アイマース Leo Eimers とティジス・ファン・デア・ハースト Thijs van der Harst の工房に案内してくれた。この親切がハリハンにはとても印象的で、有名なジブシージャズ・ギターの製作家を訪ねることができたことを喜んだ。

お互いに音楽に興味があるというだけで、他人からこのような厚遇を受けたことにハリハンは驚いた。オランダ語もフランス語も話せない彼にとって、音楽が共通の言語になった。ハリハンはクラシックギターのコンサートを開くたびに妄想に取り付かれ、良い演奏をしたいと望むあまり、完璧であることに不安感を持つ。しかし、ジブシージャズを演奏するときには、彼にはこうした不安がまったくない。

「私は、この喜びをクラシックギターの生徒たちに教えたい。我々は人間なのだと彼らに言いたい。自由自在に編集可能なCDのように弾くことを、我々は期待されてはいません。私は、学生たちにコンサートの積極的な面に、もっと焦点を当てるように訓練し、そして友情の旗を掲げ、音楽は楽しいものだとすることを強調するようにしたいと思っています。我々は全員ミュージシャンとして同じ船に乗っています。お互いをサポートする必要があるし、1人の勝利は我々全員の勝利なのだから、他人が成功するのを見たいという願望を持っていることを実証すべきです」

ジュリア・クロウ Julia Crowe



シカゴ大学で英文学を学び、ニューヨークを拠点としたギター奏者、作曲家、執筆者。クラシックギターを基本としつつ、独自のフィンガースタイルの曲を演奏する。彼女の楽曲はナショナル・パブリック・ラジオで登用されている。クロウはイギリスのクラシカル・ギター誌、アメリカのギター・プレイヤー誌、フレッツ、メルベイのギター・セッションズ、ダウンビート、サウンドボード誌などに執筆している。HP:<http://www.juliacrowe.com>